

評価指標の見直しのポイント

重点 1 学びをつなぐ授業【主体的・対話的で深い学び】

【令和の日本型学校教育】

- ① 「児童生徒が友達との話し合い等により自分の考えを深める」という「協働的な学び」に関する評価指標を追加しました。
- ② 「授業が児童生徒に合った教え方・教材などになっている」という「個別最適な学び」をさらに深めていくため、評価指標を追加しました。

【GIGAスクール】

- ① 授業等におけるコンピュータ端末の活用状況が大きく変わっているため、ICTを活用した授業について「週1回」という評価指標を「ほぼ毎日」に変更しました。
- ② 教員のICT指導力をさらに向上させるため、「授業にICTを活用して指導する能力」に関する評価指標を追加しました。

	施策の方針	評価指標
1	くめ授業スタンダードを活用した授業改善	<ul style="list-style-type: none">○全国学力・学習状況調査(小6、中3)において全国平均正答率を上回る○県学力調査(小5、中1、中2)において県を100とした場合の得点率が増加する○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答える児童生徒の割合が増加する
2	個に応じた教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none">○「国語の授業の内容がよく分かる」「算数・数学の授業の内容がよく分かる」と答える児童生徒の割合が増加する○「授業は自分にあった教え方・教材、学習時間などになっていた」と答える児童生徒の割合が増加する
3	教育ICT活用・情報教育の推進	<ul style="list-style-type: none">○コンピュータなどのICTを「授業のなかでほぼ毎日使っている」と答える児童生徒の割合が増加する○「授業にICTを活用して指導することができる」と答える教員の割合が増加する
4	外国語教育の充実	<ul style="list-style-type: none">○CEFR* A1相当以上の力を有する生徒の割合が全国平均以上になる

※青色は指標を見直したものの、赤色は指標を追加したものです。

※CEFRは、外国語の熟達度をA1、A2、B1、B2、C1、C2の6段階で評価するもので、A1は簡単なやり取りができるレベルです。